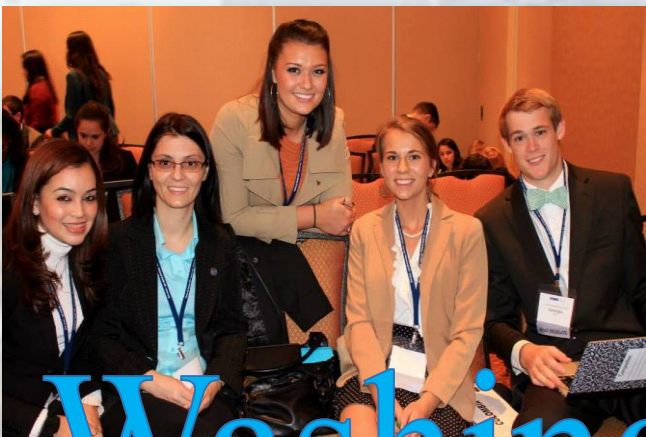




第3期麗澤大学模擬国連団体 2013年報告書



Washington D.C.

25 - 27 October 2013

目次

はじめに	3
顧問より	4
メンバー紹介	6
大会概要	8
活動の軌跡	12
ベトナム社会主義共和国とは	14
ワシントン D.C. 一週間スケジュール	19
個人の感想	20
ポジションペーパー	32
おわりに	38
フォトギャラリー	39

はじめに

麗澤模擬国連(以下麗澤 MUN)団体の発足から早2年が経過し、今年で第3期目を迎えた。今期のチームも、全米模擬国際連合(以下 NMUN)・ワシントン DC 大会に参加し、実際の会議を通して様々なものを学んできた。2年前には、日本の一大学として初めて NMUN・ワシントン DC 大会への出場を果たしたが、今年の大会では日本から私たちの他に、筑波大学チームと、大阪大学から単独での参加があった。この世界大会も毎年様々な国から参加する学生が増えていき、会議の場がより国際色豊かになっている。

NMUN は学生たちに、国際連合がどのように世界に貢献しているのか、現在なぜ世界各地で様々な問題が起きているのか知る機会を与えてくれる。この大会では、世界共通語と言われる英語が話せるのはもちろんのこと、世界の問題に対して広い見解を持ち、斬新かつ実現可能なアイデアを発言できるのかが求められる。

本大会において、私たちはベトナム社会主義共和国を代表することとなり、7月から10月まで様々な面から情報を集め自国の発言を固めてきた。しかし、実際の会議の場では私たちの準備してきたものを遥かに超える、他国の交渉力、発言力や柔軟性に終始驚かされた。実際、大会に参加したメンバー全員が、NMUN 大会が「容易な」国際大会ではないことを、数分も経たないうちに理解したのである。

しかし、麗澤 MUN 団体第1期生、第2期生同様、私たち第3期生もこの大会を通して多くのことを学ぶことができた。メンバーそれぞれ得たものは違っていても、この経験が間違いなく私たちの人生の糧になったと確信している。私たちはこの活動を通して学んだことをこの報告書に書き記す。この報告書を通して、国際舞台で活躍することの有意義さを多くの人に伝え、私たちが今回の経験を通して得たものを後輩へと受け継ぎたいと思う。そしてより多くの学生が国際舞台での活躍に興味を抱いてくれれば幸いである。

最後に、今期の麗澤 MUN 団体が大会への出場を果たすことができたのは、麗澤大学の学生、教職員の方々のサポートがあったからこそである。私たちの活動を最後までサポートして下さった皆様に、麗澤 MUN 団体一同より感謝の意を申し上げたい。

麗澤 MUN 団体一同

REPORT on NMUN GROUP 2013

6 Reitaku University students were among the 650 or so participants from around the globe who took part in the 2013 NMUN•DC Conference, held in Washington from the 25th to the 27th of October.

The NMUN gives students the opportunity to role-play as diplomats representing a country or NGO. This year, Reitaku was allocated Viet Nam, and they joined the GA1, GA2, and ICPD Committees.

To take part in such a high-level international conference is extremely challenging, requiring both a depth of knowledge of international affairs and a wide range of academic skills, such as research, group communication, public speaking, listening, negotiating, and conflict resolution. In the Top Level English class, we worked to develop these skills through mini-lectures, discussions, debates, and presentations, while at the same time building up essential knowledge by studying topics such as the history and structure of the United Nations, the Universal Declaration of Human Rights, the Millennium Development Goals, and the issues assigned to each of the four Committees.

Outside of this class, the NMUN team members spent countless hours, including 3 hours one evening per week, preparing in all kinds of ways for the conference. They experienced highs and lows, but they stuck to the task and reached their goal.

A special mention must go to Professor Mauro LoDico who volunteered a great deal of his time to helping the team prepare for the conference, particularly with regard to the writing of the position papers. His efforts are much appreciated.

As members of the Reitaku community, we should be immensely proud of these courageous students and of the fact that Reitaku was one of only three Japanese universities to be represented at this conference. I am sure that they have grown as human beings as a result of this unique experience that one member described as "life-changing." The skills they have acquired will certainly serve them well in the future.

Chris McVay (Professor, Faculty of Foreign Studies)

2013年麗澤MUN団体 レポート

6人の麗澤の学生が世界中から650人を超える学生の参加があった10月25～27日にワシントンDCで開かれた模擬国連ワシントン大会に参加した。模擬国連大会は学生に国や非政府組織を代表する外交官としての役割を演じる機会を与える。今年、麗澤はベトナムを割り当てられ、彼らは国連総会第一委員会、第二委員会、国際人口開発会議に参加した。

このようなレベルの高い国際会議に参加することはとても挑戦的なことで、国際問題についての深い知識とリサーチ、グループコミュニケーション、演説、リスニング、交渉、そして紛争解決といったような広い学問的な技術との両方が必要とされる。

トップレベルイングリッシュの授業の中で、私たちは講義、ディスカッション、ディベート、そしてプレゼンテーションを通してこれらの技術の向上に取り組むと同時に、歴史や国際連合の構造、世界人権宣言、ミレニアム開発目標、そしてそれぞれの委員会に割り当てられた議題のようなトピックに関する必要な知識を高めていった。

この授業外でも、模擬国連チームのメンバーは、毎週一晩3時間のミーティングを行ったことを含め、会議に向けてのあらゆる準備に数えきれない時間を過ごした。彼らはよい時もつらい時も過ごしたが、最後までやり遂げ、目標を達成した。

会議に向けての準備、とりわけポジションペーパーを書くにあたって、チームを助けることを進んで引き受け、大変な時間を割いてくださったマウロ・ロディオ教授に特筆しておきたい。彼の協力に非常に感謝している。

麗澤コミュニティーの一員として、私たちはこの勇敢な学生たちと麗澤が日本を代表してこの会議に参加したたった3大学のうちの一つであることを非常に誇りに思うべきである。私は一人のメンバーが「人生を変える経験」と表現したこのユニークな経験の結果、彼らが人間として成長したことを確信している。彼らが得たスキルは必ず将来彼らの役に立つだろう。

クリス・マクヴェイ (外国語学部教授)

訳：石井 千晃

メンバー紹介

齋藤 祐介 (Yusuke Saito)

1. 所属：学国語学部英語コミュニケーション専攻 4年
Chris McVay ゼミ
 2. 役職：代表
 3. 担当委員会：International Conference on Population and
Development (国際人口開発会議)
 4. その他経験：
2011年秋にワシントン DC で行われた模擬国連大会に参加。
【留学】2012年8月からアメリカ合衆国フットヒル大学にて
7か月の語学留学。
【学内】ASPIRE Reitaku 代表
-



石井 千晃 (Chiaki Ishii)

1. 所属：外国語学部英語コミュニケーション専攻 3年
梅田徹ゼミ
 2. 役職：書記
 3. 担当委員会：General Assembly First Committee
(国連総会第一委員会)
 4. その他経験：
【研修】2011年8月タイ・スタディーツアー
2013年2月ラオス・スタディーツアーに参加。
【学内】プラン代表、ASPIRE Reitaku メンバー
-



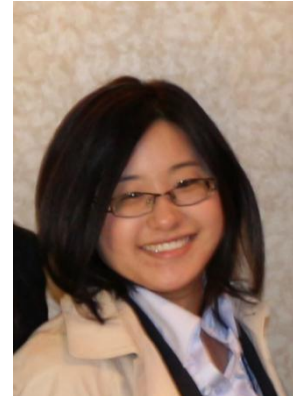
齊藤 瑠奈 (Luna Saito)

1. 所属：経済学部経営学科 IMC コース 3年
中島真志ゼミ
 2. 役職：会計
 3. 担当委員会：General Assembly Second Committee
(国連総会第二委員会)
 4. その他経験：
【留学】2012年8月からオランダフェンティス応用化学大学
にて5か月の専門留学。
-



井上 裕香子 (Yukako Inoue)

1. 所属：経済学部経営学科 IMC コース 3 年
高巖ゼミ
2. 役職：企画
3. 担当委員会：General Assembly First Committee
(国連総会第一委員会)
4. その他経験：
【留学】2012 年 8 月からアメリカ合衆国パシフィック大学
にて 10 か月の専門留学



東 午 (Shu Wu)

1. 所属：大学院言語教育研究科英語教育専攻 1 年
2. 役職：情報管理
3. 担当委員会：General Assembly Second Committee
(国連総会第二委員会)
4. その他経験：
2011 年 5 月来日。麗澤大学別科日本語研修課程を経て、現在
大学院で英語教育を専攻。



加藤 卓 (Takashi Kato)

1. 所属：外国語学部国際交流・国際協力専攻 3 年
成瀬猛ゼミ
2. 役職：広報
3. 担当委員会：International Conference on Population and
Development (国際人口開発会議)
4. その他経験：
【研修】2011 年 8 月タイ・スタディーツアー
2012 年 8 月中東研修に参加



模擬国際連合大会

概要

模擬国際連合（以下、模擬国連）大会とは、国際連合（以下、国連）の会議を模擬する大会である。大学を中心とする世界中から集まる教育機関に1つ1つ国を割り当て、参加者は各自の担当国の大使になりきり、実際の国連で行われる会議、他国との交渉、決議案の採択などを行う。

1923年にハーバード大学において行われた、模擬国際連盟大会が原点であり、1946年に国連が設立後、現在の模擬国連が始動した。現在では模擬国連大会は世界各地で行われている。アメリカのニューヨーク、ワシントンDC、イギリスのロンドン、韓国のソウルなどである。日本では1983年から、日本模擬国連という名前で存在している。

目的

模擬国連大会の目的は、参加者に大会を通じて国連の仕組みと国際問題への理解を深めてもらうことである。参加者は1つの国の代表として会議に参加するので、世界各国の問題や、経済事情を知る必要がある。その上で、会議を通して他国と交渉し、解決策を見出していく。模擬国連で行われる会議は、国際社会で活躍するための知識や柔軟性、論理的に考える力などが要求される。今回の大会では100カ国集まり、米国のみならず、南米、ヨーロッパ諸国、またアジアからも参加団体があった。日本からも麗澤大学をはじめ、筑波大学、大阪大学から参加者があった。

委員会について

今回の模擬国連大会では、6つの委員会が提供された。委員会ではそれぞれ担当分野があり、その委員会ごとに会議が行われる。模擬国連大会では、1つの団体員全員が1つの会議に出席するのではなく、担当国が実際に所属している委員会に分かれる。6つの会議があるが、すべてに出席する必要はない。委員会は同時進行される。

行われた委員会

第1委員会

第2委員会

国際人口
開発会議

国連食糧
農業機関

国連環境計画

安全保障理事会

今回、6人のメンバーがいる麗澤MUNチームは2人ずつ、3つの委員会に参加した。以下は担当した委員会である。

① 第1委員会（軍縮と安全保障）

紛争の引き金となる軍事力の問題と、国家の安全保障について

② 第2委員会（政治と経済）

世界各国の経済事情が話されるだけでなく、経済格差がもたらす貧困について

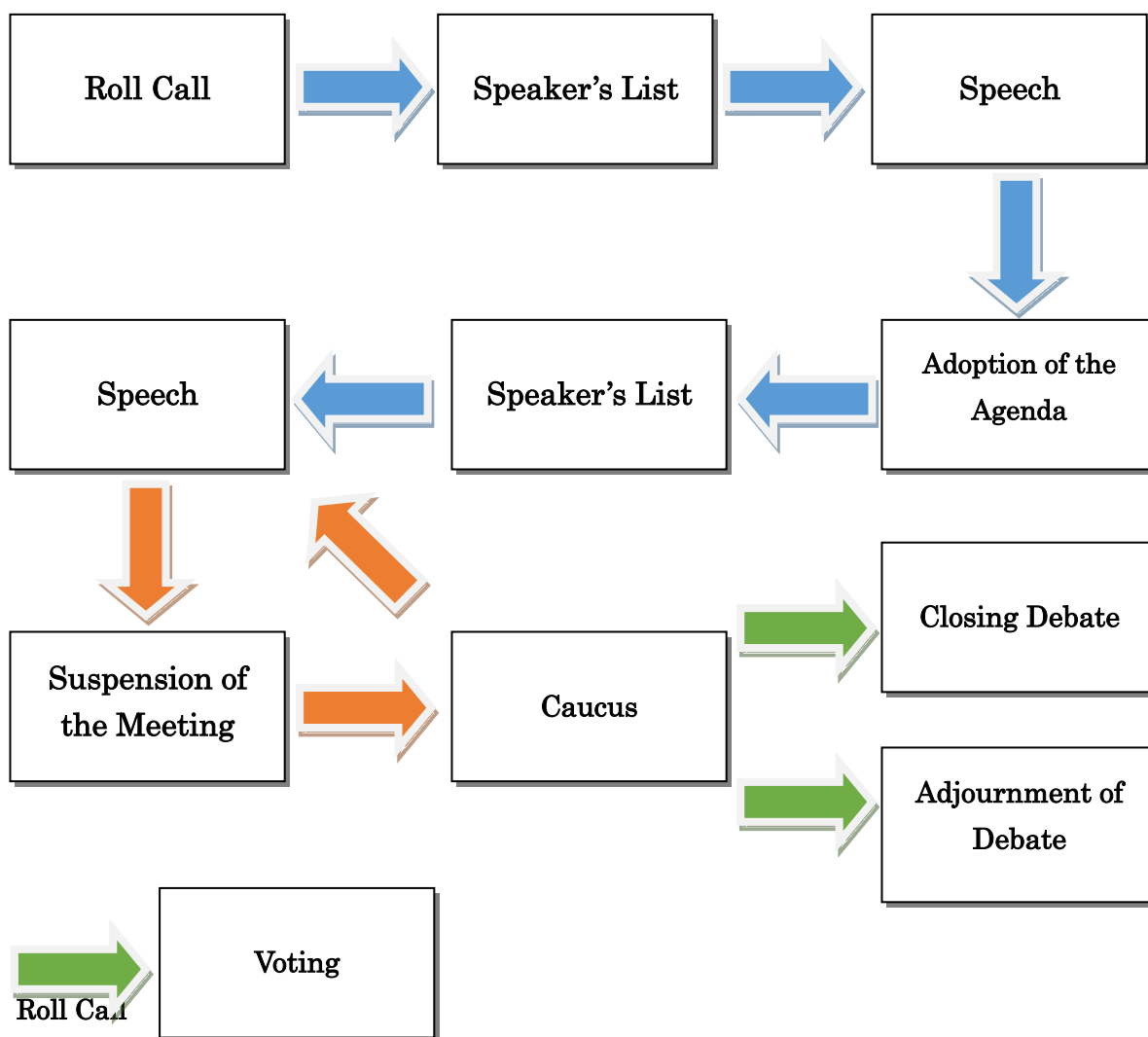
③ 国際人口開発会議（健康と保健）

性と生殖に関する健康および権利に関する問題について

各委員会は、上記のテーマを基に、提示された問題について、問題点や解決策を討議し合い、解決案を提言していく。

会議の流れと用語

模擬国連大会の流れと用語を簡単に説明する。



出席確認。アルファベット順に国の名前が呼ばれる。“Present” か “Present and Voting” と答える。投票の際に、Present と述べた国は棄権ができるが、Present and Voting と述べれば必ず投票しなくてはならない。Roll Call に遅刻した場合は、代表国名と投票の是非をメモに書き、議長へ提出する。

Speaker's List

スピーチ順番リスト。議長の「スピーチで自国の主張をしたい国は、プラカードをあげなさい」という指示でカードを挙げて、指された順にスピーチを行う。スピーカーズリストが閉じるまでは何度でもリストに載り、スピーチをする権利がある。

Speech

公式討議。担当国の立場を表明する場である。通常は1分半だが、参加国の希望によって時間の変更が可能。変更する場合は多数決が取られる。スピーチの間は私語をしてはいけないが、メモを回すことは可能。会議は公式討議と非公式討議（後述）を繰り返して行われる。

Adoption of the Agenda

討議する議題の順番を決める。大体、大会中は時間の関係上、一つの議題についてのみ討議するので、この順番決めは重要である。1→2→3 の順番を 2→1→3 のように変えたい場合、多数決で過半数の賛成が必要である。議題の順番は最大で9通りある。

Suspension of the Meeting

公式討議の一時中断。議題の順番や他国の意見が聞きたいときにこれを申請することにより、公式討議を一時中断し、パートナーや他国と自由に意見交換することができる。この動議を申請する場合、どの程度会議を中断したいのか、希望の時間を述べる必要がある。多数決により採択された一定時間、討論を行うことができる。

Caucus

非公式討議。会議の大部分を占める。この中で、各国はそれぞれの意見を交換し合い、同じような意見を持つ国同士で決議案草案（**Working Paper**）を作成していく。草案はこの時間中に議長へ提出され、内容や言葉の言い回しをチェックされる。代表団へ返却された草案は修正（**Amendment**）され、再び議長のチェックを受ける。これを3~6回繰り返す。

草案には批推国と署名国 (**Sponsor / Signatory**) が存在する。批推国 (**Sponsor**) とは、草案を中心となって書いた国のことであり、これになることができれば自分たちが中心となって決議案を作り上げた、という証拠になる。署名国 (**Signatory**) とは、その草案にはあまり関わっていないが、同意する国、もしくは多少関わりがあり、意見を入れてもらった国などのことである。批推国と署名国は会議に出席している総数の最低 20%の国数が必要であり、その条件を持って、最終段階である最終決議案の提出へ移行することができる。この時間中に、すべての最終決議案に目を通しておく必要がある。

Adjournment of Debate

会議の終了。この申請が採択されると、どのような状況にあっても、話し合っている議題を強制終了し、ただちに次の議題へ移る。もし、自国にとって討議するのが難しい議題が初めに来てしまった場合、この申請をして過半数の賛成を得られれば採択され、討議しなくて済む。

Closing Debate

討議の終了。この申請が採択されるとすぐに投票へ移る。会議の後半で申請されることが多い。採択には総参加国数の 2/3 以上の賛成が必要。

Voting

投票、議決 (**Resolution Paper**)。提出された草案に番号が付けられ、その順番に投票が行われる。賛成・反対 (**Agree / Disagree**)、もしくは棄権 (**Abstain**) する。出席確認 (**Roll Call**) で “**Present and Voting**” と言った国は棄権ができない。投票の方法は二つあり、一つは **Agree/Disagree** であり、もう一つは **Roll Call** で各国に議長が賛否を聞く。過半数の賛成を得られた草案 (**Resolution Draft**) は決議案 (**Resolution Paper**) となり、1つの議題が終了する。一連の流れを会議毎に行っていく。

活動の軌跡

麗澤大学に模擬国連団体が発足して、今回で3期目となる。10月の下旬に開催される会議に向け、私たちは準備に半年という歳月をかけてきた。時にはメンバー同士ぶつかり合い、時には支え合いあつという間に半年は過ぎた。また、今回私たちがこのような素晴らしい挑戦をすることができたのは、第一期、第二期の先輩方の「麗澤から世界へ」という熱い思いに支えられていたからである。

チーム始動

4月4日アメリカから一人の男が7か月の留学を終え帰国した。第三期のリーダーを務める齋藤祐介である。そして16日メンバーが招集され、第三期の活動が始動した。初回のミーティングには2期生のメンバーも参加し、引き継ぎを含めたアドバイスをいただいた。それから週に一度ミーティングを開き、国際連合や模擬国連の知識を徐々に押さえていった。基礎をしっかりと押さえるために夏休みまでは基本的に日本語で会議を行い、会議で使われる重要な英語表現などは毎回のミーティングで少しずつ押さえていった。また実際の会議の流れを理解するだけでなく体験する形も取り入れ、人前に立ってスピーチをすることに慣れるためミーティングの最初には英語での一分間スピーチを毎回行った。メンバーが確定してきた中で、書記や会計といった役割をメンバー内で決め、報告、連絡、相談の「報・連・相」を徹底した。

リサーチ開始



実際の会議で話し合われる議題が発表され、リサーチを開始したのは6月に入ったあたりであった。リサーチにおいては信憑性のある情報を手に入れるため、一つの情報に対して様々な視点からアプローチすることが必要とされた。私たちがはまず手を付けたことは議題についての理解を進めるということだ。議題を解釈するだけでなく、どうして今この議題が扱われるのかといった背景にある国際情勢までも理解することが必要とされ、NMUNのホームページに公開されるバックグラウンドガイドも読み込みながら、リサーチを進めた。また、国際法の知識を得るために梅田先生に国際法の特別講義をしていただいた。

国決定

国決めに当たっては、私たちが国の希望を提出する段階で残りが7か国しか残っておらず、苦し紛れにモーリタニアを第一候補として提出した。こうして国がモーリタニアに決まったが、その直後ホームページをチェックした際、新しい国がいくつかリストアップされていることを知った。情報量の面からそのうちの一か国であったベトナムに目をつけ変更を希望したところ、変更を認めていただくことができ、改めて私たちは「ベトナム」として大会に参加することが決

まった。国の変更に伴い国連総会第一委員会、第二委員会、国際人口開発会議の3つの委員会に2人ずつのペアとなって参加することを決めた。

事前報告会



ベトナムを代表して会議に出場することが決まりリサーチにも熱が入ってきた7月中旬、アイラウンジにて事前報告会を開かせていただいた。広報が不十分であったことやプレゼンテーションの技術面からもたくさんの反省点が上がったが、中山学長をはじめとした多くの方々にお越しいただき、大会の概要や目的、私たちの活動内容をお伝えすることができた。質疑応答ではたくさんの質問をいただき、多くの方に私たちの活動に興味を持っていただいているということを感じた。

ポジションペーパー



大会まで残り三か月をきり、チームはポジションペーパーの作成に取り掛かった。ポジションペーパーとは、自国が大会で挙げられた議題に対してどのような立場で会議に臨むかを書き表した立場表明書となる。2週間に一度提出日を設け、委員会ごとに作成したポジションペーパーをネイティブの先生に文法の面からご指導していただいた。情報収集のためベトナム大使館を訪ね、大使の方と直接お話をさせていただく機会も得た。またリサーチを進めると同時に、航空券の手配やESTA/VISAの申請といった渡航に向けての準備も進めていった。夏休みのほとんどをポジションペーパーの作成に費やし、今回挙げられた議題に対してリサーチを重ね、ベトナムとしての自分たちの立場を書き上げた。最後まで書き終えることができたのも、顧問のクリス先生、そしてポジションペーパーの添削を下さったマウロ先生の協力を得ることができたからだ。

大会に向けて

大会まで3週間をきった中、チームは大会へ向けての準備に奔走した。ホームページに公開されるガイドラインを読み込み、実際の会議の流れ、ルールなどを頭に入れていった。また、ディベートの練習にも力を入れた。ディベートにおいては自分の意見を論理的にわかりやすく伝えることが重要とされる。自分の意見を述べる一連の流れを練習していったが、実際の会議のスピードの中で実践することはかなりの困難を極め、より早くからの対策が必要であったことを痛感した。また、夏休みの大半を使って作ってきたポジションペーパーを基礎に、スピーチの原稿を作り練習を重ねた。たくさんの方々に激励の言葉をいただき、10月23日ついに私たちは出発の日を迎えた。

ベトナム社会主義共和国とは



目次

1. ベトナム概要
 - ・ 基本データ
2. 歴史
 - ・ 中国による支配と独立
 - ・ フランスの保護国時代
 - ・ 日本軍の進駐
 - ・ インドシナ戦争
 - ・ ベトナム戦争
3. 現在の政治
 - ・ 政治体制
 - ・ 外交
4. 経済
 - ・ 農業分野
 - ・ 教育分野
5. 文化
 - ・ 食文化

1. 概要

ベトナム社会主義共和国とは、チュオン・タン・サン国家主席率いる、54の民族から成る社会主義共和国である。東南アジアのインドシナ半島東部に位置し、農林水産業、鉱業、軽工業などが主な産業となっている。GDPは約1,377億ドル（2012年）である。

基本データ



人口：約8,970万人（2012年時点）

国土：32万9,241km²

公用語：ベトナム語

政体：社会主義共和国

首都：ハノイ

2. 歴史

中国による支配

ベトナムは紀元前111年漢の武帝によって支配されるようになり、その後千年もの間、漢、隋、唐といった中国王朝によって支配された。中国の政治や文化はベトナムに大きな影響を及ぼした。唐時代末期の混乱により、938年独立。以後南部と北部に様々な王朝が成立する。

フランスの保護国時代

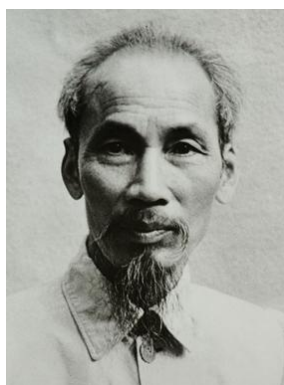
19世紀半ばから西洋の資本主義諸国は、東洋諸国への侵略・占領を進めた。その動きに伴いフランスは、キリスト教防衛という口実の下に軍隊を率いてベトナムに侵略し、植民地とした。フランスの植民地支配により商業や工業は発達したが、大半のベトナム人の生活は貧しく民族的な反発をまねいた。ベトナムは何度もフランス軍と抗戦したが1883年にアルマン条約を、翌年1884年にパトノートル条約を結び完全にフランスの保護国となった。二つの条約の締結後も反仏抗戦運動は続き、大きな抗戦として勤王運動、バーディン蜂起、バイサイ蜂起やフオンケー蜂起などが上げられる。1897年からフランスは植民地の開拓を大規模に行い、ベトナム、カンボジア、ラオスからなるインドシナ連邦を樹立した。

日本軍の進駐

1939年9月に第二次世界大戦が勃発すると、日本は中国侵略を推し進め中越の国境沿いまで進攻した。その後フランスはランソンで日本に降伏し、日本はインドシナを植民地に

し、戦争の根拠地にするために侵略を続けた。これに対しベトナム共産党はフランスおよび日本の支配に反対する各層を結集しベトミンを1941年に組織し、ベトナム独立運動を開始した。1945年の日本軍の降伏により、ベトミンが一斉蜂起（八月革命）、ハノイを占領し、ベトナム民族解放委員会主席のホー・チ・ミンにより、ベトナム民主共和国の独立宣言がなされた。

インドシナ戦争



フランスは暫定協定に調印したにも関わらず、再度侵略戦争をしかけ、インドシナ戦争が勃発した。この頃、南部と北部の状況は非常に緊迫し始めていた。1949年にフランスはベトナム国を樹立。これに対し、中国・ソ連はベトナム民主共和国を承諾した。このようにベトナム国内に、資本主義対社会主義の構図が描かれるようになった。ベトミンは山岳地帯に引きこもり抵抗を続け、1954年、ディエンビエンフーのフランス軍要塞を陥落させた。1954年のジュネーブ会議の結果、両国は休戦協定を受け入れ、ベトナムの国土は北緯17度線で南北に分割され、北はホー・チ・ミンが率いるベトナム民主共和国、南はゴ・ディン・ディエムが率いるベトナム共和国となった。

ベトナム戦争



南北はそれぞれアメリカと中国・ソ連の支援を受けて対立を深めた。南の政権はアメリカの支援のもと反共政策を強権的に押しすすめ、これに対して反米・反政府運動が高まった。1960年には、南ベトナム解放民族戦線が結成され、北のベトナム民主共和国の支援を受けてゲリラ戦を展開。1964年のトンキン湾事件をきっかけにアメリカのジョンソン大統領は、北ベトナムへの北爆を行い、本格的なベトナム戦争へと入っていった。一方、ソ連・中国は北ベトナムと解放戦線に大規模な軍事・経済援助を行った。ベトナム戦争は長期化し、第二次世界大戦後最大の戦争となり、数百万の人命が失われた。1960年代後半、ベトナムへのアメリカの軍事介入に反対する反戦運動が全世界に広まり、アメリカ政府は厳しい批判にさらされた。1973年にパリ平和協定が成立し、アメリカ軍は撤退。1975年に北ベトナム軍と解放戦線はサイゴンを陥落させ、南ベトナム全土を制圧、翌1976年に南北統一が実現し、ベトナム社会主義共和国が成立した。

3. 現在の政治

政治体制

1986年の党大会で採択された市場経済システムの導入と対外開放化を柱としたドイモイ政策を継続、外資導入に向けた構造改革や国際競争力強化に取り組んでいる。しかし、ドイモイ政策の進展の裏で、貧富の差の拡大、汚職の蔓延、官僚主義の弊害、環境破壊などのマイナス面も顕在化している。

外交

全方位外交の展開、特に ASEAN、アジア・太平洋諸国等近隣諸国との友好関係の拡大に努めている。対外開放、地域・国際社会への統合の推進。1995年7月、米国と国交正常化、ASEANに加盟。1998年11月、APECに加盟し、2006年にAPEC議長国を務めた。2008年1月、国連安全保障理事会非常任理事国（任期2008年～2009年）に就任。2010年ASEAN議長国を務めた。

4. 経済

1986年に共産党第6回全国代表大会でドイモイ政策が提示され、五ヵ年計画を実施し、食糧・食品、消費財、輸出品の3つの経済プログラムの任務・目標を実現するために、全国で人と物の力を集中させた。2000年代には経済の成長速度を維持し、国内生産を毎年平均7%伸ばすなど成果をだした。しかし、経済発展はまだ堅固ではなく、競争力は低い。一部の幹部・党員における政治思想・道徳・生活様式の墮落や汚職などの問題もでている。

5. 文化

食文化



ベトナムは中国文化の影響を強く受けてきたため、ベトナム料理にも中華料理の影響が色濃く現れている。また、フランスによる植民地統治を受けていたこともあり、フランス食文化にも影響を受けている。主に米、香菜、ナンプラーを料理に使い、ライスヌードルを使ったフォーは定番の料理である。また、あまり知られていないが、酸味の強いスープ仕立てに魚と野菜をたっぷり入れたカインチュアと呼ばれる料理はベトナムの一番の伝統料理である。

参考文献

-ベトナムの歴史

ファン・ゴク・リエン（2008）

-外務省 HP

ワシントン D.C. 一週間スケジュール

Time/Day	23	24	25	26	27	28	29
6:00	起床	Day Tour	1st day	2nd day	3rd day	起床	
6:30						Breakfast	
7:00		起床	起床	起床	起床	帰宅準備	
7:30	53 我孫子発 成田空港行	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast		
8:00						チェックアウト	
8:30	49 成田空港 着					10 5Aバス発	
9:00	成田空港集合	ワシントンモ ニュメント観賞		Committee Session 2	Committee Session 5	20 ダレス空港 着	
9:30	荷物を預ける			"	"		
10:00		Shopping		"	"	荷物を預ける	
10:30		40 ワシントン ダレス空港 着		"	"		
11:00	05 出発	入国審査		"	"		
11:30	Flight		Conference Registration	"	"		
12:00		5Aシャトルバス (ホテル行) Lunch	"	Lunch	Lunch	20 出発	
12:30		47 ランファンホ テル付近 着	"			Flight	
13:00		ホワイトハウス 観賞	"				
13:30			"		Conclusion & Voting		
14:00		リンカーン記念 堂		Committee Session 3	"		
14:30			Opening Ceremony	"	"		
15:00	Holiday Inn Check in	キング牧師像	"	"		25 成田空港 着	
15:30			"	"	Closing Ceremony	ミーティング	
16:00				"	"	解散	
16:30				"	"		
17:00		ホテルに帰宅	CommBriefings by Experts	Opportunity Fair in Hotel			
17:30			"	"			
18:00		Dinner		Dinner			
18:30			Rules Training				
19:00	Dinner		"	Committee Session 4			
19:30			Dinner	"			
20:00			Committee Session 1	"	Dinner		
20:30			"	"			
21:00			"	"			
21:30			"	"			
22:00							
22:30							
23:00		就寝	就寝	就寝	就寝	ナイトツアー	

個人の感想

ここからは私たちの個々の感想を述べる。自分たちが得たものや感じたものを率直に書き記すため、形式を統一していないことをご了承頂きたい。

齋藤 祐介

初めに、今まで麗澤 MUN 第 3 期の活動を支援して下さった麗澤大学の教職員の方々、在校生、卒業生の皆さん、そして、教育実習や教員採用試験の都合で活動から離れていた際に、団体の活動を率先していったチームの皆に感謝の意を表したい。

私は今回の大会が 2 回目となる。このような有意義な経験を大学在学中に 2 回も経験できるのは、自分でも運が良過ぎると感じている。

1 回目の出場は第 1 期生と共に、2011 年に NMUN ワシントン DC 大会に出場した時である。この団体に入ったきっかけは、第 1 期のメンバーが私に声を掛けてくれたことだった。自身の英語力を世界の中で試してみたいと思っていた私だったが、大会に出場した結果「自分の英語は世界に通用しない」ということを痛感した。同時に世界の学生の国際問題に対する意識の高さに気付かされた。今までの自分に対する甘さ、そして全力を出せなかったことを後悔していたが、この辛く苦い経験から得られたものは計り知れない。2 年次にこの挫折経験をしていなかったら、3 年次の後期に留学を決意することなど決まらなかっただろう。この活動は自分自身の人生を変える程の経験を与えてくれたのだ。

そして 2 回目の大会出場。悔しい思いをした第 1 期の時の経験を胸に挑んだ大会。やはり NMUN という大会は、何度参加しても意義深い体験をさせてくれると感じた。今回の大会参加でも数多くの実りある経験、そして課題点を得ることができたのだ。

実りのある収穫として、大会を通して「英語力<知識量」に気付かされたことが挙げられる。私は 1 回目の経験から「自分の英語が通用しないのは英語力が低いためだ。だから話せなかったのだ。」と思っていた。留学を通し英語力を磨き上げ、英語母語話者の話す速度に着いていくことも 2 年次に比べれば遥かに容易であったし、発言することに関しても臆することなく積極的にできた。

それにも関わらず、他国代表の交渉力に圧倒され続けていた理由は、互いに持っている背景知識の量に違いがあったからである。私はある問題に対して、基礎知識や浅い情報等を持ち合わせているだけで、深い理解と自分の意見を持ち合わせていなかった。そのため「あなたの意見は？」という相手の質問に対して窮することが多々あったのだ。しかし、私が会議で会った学生のほとんどは問題点を噛み砕いて、根底まで理解し、そしてそれを



他の問題点にもリンクさせながら独自の意見を論じていた。始めから最後まで、事実・証拠・現状・意見をセットに論を固めていたので、固められた意見に対して反論することがとても難しかったと感じた。それでも、早い段階から欧米の交渉における“Speech Pattern”を知るだけでなく、肌で感じることができたのは大きな利益であっただろう。

私自身の課題点は、諸問題に対する「知る力／リサーチ力」が欠如していたことが挙げられる。国際問題や国同士の摩擦に関しては、背景に組織・条約・歴史・法律（憲法）・政策等が関与しているため、これら全て（もしくはこれら以上）の事柄に対して情報を読み取り、深くまで理解し、整理することが必要不可欠である。今振り返ると、私は問題点に対して知ったつもりでいたのかもしれない。深くまでリサーチをしたつもりでいたのかもしれない。そのため、交渉の場で知らない事実をポンと出された時に思考が一時停止し、意見や反論ができないことがあったのだろう。

麗澤 MUN の活動では、リサーチは非常に難しいスキルの一つである。信憑性があり、個人の意見に偏っていない正確な情報を如何に入手し、情報をまとめ、自分の意見へと変えることができるのかがこの活動には求められている。そして物事を理解する際にも、必ず事実の裏の裏まで理解するよう務めなければならない。例えば、何故日本には様々な領土問題があるのか。知っているようで、深い内容まで聞かれたら答えられないような問題に対して、なぜ・いつ・どこで・どのように起きたのか、理解を徹底することが重要である。世界交渉の場で意見・反論を成功させるためには、それにプラスして広い視野を持ったグローバルな知識を持ち合わせることを求められるのである。

実は、今回の大会出場を通してもう一つの良い収穫があった。それはこの活動を通して世界各国、各地域、各大学とのネットワークを作ることができたことだ。この大会を通して、日本にある大学だけでも、筑波大学と大阪大学の二校と交流を持つようになった。中国の大学では、麗澤大学と留学提携のある香港理工大学の学生とも交流を果たした。一層協力をし合って、大会に向けて情報を共有し合うことが前よりも容易になったのだ。麗澤大学が今後さらに飛躍する機会を、他大学との関係を構築したことから得ることが可能になったと私は信じている。

私の大学生生活の思い出は麗澤 MUN の活動が中心であった。留学のきっかけを与えてくれたのが麗澤 MUN の活動であり、現在手掛けている新しい団体“ASPIRE Reitaku”もこの活動に関わっていた結果である。麗澤 MUN の活動に誘われていなかったら、きっと楽な道を進んでいただろう。この活動は決して「楽な」活動ではないが、この活動のおかげで「楽しい」学生生活を送れた。受賞こそ逃したものの、この活動は大学生活において有意義で、賞よりも大切なものを得ることができたと確信している。自分自身が行動することで、様々な道が切り開かれる。この活動への一歩は、世界で活躍する学生の一員になる一歩となると信じている。

石井 千晃

3年生になった春、2人の親友が留学へと旅立ち、頑張っている友人に日本にいる私も負けたくないという思いがあった。それでも模擬国連への挑戦は、正直とても怖かった。留学経験がなく、英語ができない私には無理だと自分で決めつけていた。一步を踏み出すことができないでいた時、私の背中を押してくれたのはクリス先生だった。先生の情熱的な言葉はいつも私を勇気づけ、支えてくれた。



会議で扱われる議題は、正直今までの自分には遠い世界の問題ばかりだった。夏休みに入りポジションペーパーの作成に取り掛かったが、議題をバックグラウンドも含めて理解し、その議題に対してのベトナムの主張を作るという作業は容易ではなかった。今まで読んだこともなかったような英文の資料と毎日格闘し、マウロ先生の添削とリサーチを繰り返した。英語に関しては“できることはすべてやりなさい”というクリス先生のアドバイスに従い、手当たり次第に取り組んだ。字幕なしで洋画を見ることやスカイプで利用できる英会話などを毎日続けた。また、語学力の足りない自分でもチームのためにできることがあると信じて活動した。大会が迫ってくると徐々に不安も大きくなったが、武装解除のプロとして国連で活躍されていた方の講演に行ったり、グローバルフェスタに出かけたりすることで自分のモチベーションを上げた。また、会議の流れやルールなどを必死で覚えるとともに、スピーチの練習にも力を入れた。クリス先生にレコーダーにスピーチを吹き込んでいただき、それを何度も聞き、発音・リズムなどを体で覚えた。Top Level Englishの授業の中でも練習をする機会をいただき、クラスメートからアドバイスをもらいさらに練習を重ねた。この積み重ねた練習こそが本番で自分を支えてくれた。

あっという間に出発の日を迎え、いよいよ私たちの挑戦が始まった。不安と緊張でいっぱいだったが、同時に期待に胸も膨らんでいた。私の最大の試練は会議が始まり1時間もたたないうちにやってきた。私が出場した委員会はすぐに話し合う議題が決まり、議長の「スピーチカードリストに載りたい国はプラカードを上げなさい。」という指示に、もちろん私もプラカードを上げた。ほとんどの国のプラカードが上がる中、“Viet Nam”と最初にコールされ頭の中が真っ白になった。スピーチの準備は万全だったが、まさか一番に呼ばれるとは思ってもいなかった。こうして私は緊張する間もなくマイクの前に立っていた。足の震えが止まらなかった。無理矢理声を絞り出し、のどが痛くなったことを覚えている。スピーチを終え席に戻ると、近くにいた代表たちが“good job”、“cool”と言いながら手を差し出してくれた。握手をしながら、安堵と嬉しさでいっぱいだった。

大会中少なからず言葉の壁を感じるがあった。今まで経験したことのない英語のスピードと迫力についていけなかったのである。凄まじい勢いで飛び交う言葉、次から次へ

と進む会話についていくのがやっとならなくて反論どころではなかった。数人のグループで話していると、私一人内容を理解できていないという状況になることも、空気に飲まれ分からないのにイエスと言ってしまうこともあった。非公式会議が始まる度に席を立ちたくないという思いに駆られることが幾度となくあった。それでも参加者全員が自分の想像以上に優しくフレンドリーであった。いろいろな代表に“Hi”と話しかけることから始め、もっとゆっくりわかりやすく話してくれと言うことを躊躇しないようにした。自分の意見はものすごい勢いで話してくれるが、私が意見を話すと「ふーん」という程度に流されてしまうこともあった。しかし全く相手にされないというわけではなかった。何度もあの手この手で交渉するうちに相手に「おっ」と思わせることができたらしく、たった4行であったが私は自分の意見をワーキングペーパーに組み込むことができた。大会終盤には互いに顔を覚え、挨拶代わりに“Viet Nam”と呼んでもらえることが増えた。自分の存在を認識してもらえていることが私には嬉しかった。会議が終わった瞬間の達成感は言葉に表すことができない。たった3日間の会議のために費やしてきた半年間の努力が報われたように感じた。会議を通して世界中に友達を作ることができたことは私にとって何よりの成果である。

大会を終えて純粋に楽しかったと思うことができた。しかし同時に悔しさも残る。準備期間も通して、私は自分一人では何もできていなかった。ベトナムになりきることができなかったという反省点もある。嫌というほど自分の甘さを思い知った。経験、知識の量すべてにおいて完敗だった。しかしそれでも今「負けたくない」という思いを抱いている。参加する前は大会に出場し、生きて帰ってくるのが私の目標だった。しかし今の自分はそれで満足していない。もっと世界を知りたい、もっと英語を自由に話せるようになりたいと強く思う。いつしか彼らと対等に戦うことができるようになるために、英語については不断の努力を続けていく。世界の壁は高かった。でも手を伸ばせば届きそうだと感じることができた。

何もなくても会議の3日間はあっという間に終わってしまう。全ては自分次第だ。それは今後の学生生活にも同じことが言えると思う。私は今回模擬国連に参加するという一歩踏み出せたことを自信にしようと思う。スピーチを含め、どんなにひどい経験でもやって後悔したことは一つもない。一度行かなければ知りえないことばかりであり、全てが素晴らしい経験として自分の財産である。私にとって模擬国連はまさしく“人生を変える経験”であった。

最後に、チームのメンバー全員、そしてご支援して下さった全ての方々に感謝の気持ちを伝えたい。思えばチームに参加すると決めた日から今日まで、次から次へと立ち上がる壁を一つ一つ乗り越えてきたように思う。その際メンバーを含め多くの先生方、先輩方、また友人達に私は常に支えられていた。今回多くのサポートを受けながらこのような素晴らしい経験をさせていただいたことを心から幸せに思う。今後の麗澤大学の益々のご発展と、より多くの後輩がこの素晴らしい経験を通し世界へ飛び出していくことを願ってお礼とさせていただきます。

齊藤 瑠奈

この度は、通常では考えられないような素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝の意を表したい。アメリカで三日間の会議を終えた後の私はなんとも言葉にし難い幸せな気持ちでいっぱいだった。

もともと私は、それほどこの麗澤 MUN 団体に興味があったわけではなかった。友人達は参加を考えていたが、物臭な私はやる気が起きなかった。しかし留学から帰り、第一期のメンバーで、今回のリーダーである齊藤と既に入団を決めていた友人の井上に口説き落とされ、私もメンバーとなった。



当初、活動が始まった頃は模擬国連というものがどういったものかわからず、国連や提示されたトピックの背景を調べると言っても、何をどうしたらいいのかよく理解できないままだった。各委員会に分かれ、それぞれがポジションペーパーを書き始めても、ベトナムの実状を書くとか、問題点に関する改善方法をどうするとか、またそれをどのようにして国際社会に繋げるか等がわかっていなかった。いくら経済学科でマクロ経済について勉強していても、その知識と実際の政策や統計が結びつかなければ、意味はないのだなと思ったのを覚えている。

スピーチの原稿にしても、結局ポジションペーパーの文句を切り張りして製作してしまい、聞き手を意識していないものになってしまったように思う。実際、会議へ出席すると他国の代表のスピーチに驚かされるが多かった。確かに私たちと同じように、ただスピーチ原稿を読んでいる代表もいたが、そういった代表には心を動かされない。本当に相手を引き込むようなスピーチをするには、原稿ではなくその場で聞き手に合った話し方をすることが大切なのだということを学ぶことができた。

会議の大部分を占めるコーカス（非公式会議）の時間が、私を大きく成長させてくれた。以前から「早めの行動が大切」と教えられていたので、初めのスピーチで聞き取れないアメリカ英語を聞き取るよう努力し、なるべく自分たちの立ち位置と近い国を見つけて、意見を聞こうと思っていた。だが、いざ会議が始まると想像以上に聞き取れない。早口で話す学生たちだけでなく、会議の諸注意を話す議長の言葉さえ聞き取れないのだ。幸い、会議が始まる前までに ASEAN 諸国をはじめとするアジアの国を代表する人たちと知り合うことができ、その人たちと一緒に座ることが出来たので特に聞き取らなければならない投票や多数決の時などは、聞き取れなかった場合周りにいる学生に聞くことも多かった。これは今考えても最も大きな反省点である。人が何を言っているのかわからなければ、討論どころの話ではない。自分の意見を主張するどころか、相手の主張がわからないのだから仲間を見つけることもできない。すぐに私は、話している言葉全てを聞き取ろうとすることを諦め、代わりに知っている言葉や自分たちもポジションペーパーやスピーチの中で使

っている言葉を、きちんと押さえるようにした。そしていざ非公式会議になると、スピーチを聞いて「ここは同じような意見を持っているな」と思った所へ話を聞きに走った。

何度も言うようだが、最初の掴みがなにより大切である。私が興味を持ったスピーチを行った国は、コーカスが始まった時点で既に決議案草案（ワーキングペーパー）に取り組んでいて、他に数国がその国とともに草案の作成を始めていた。私には草案を書くだけの力量はないので、たどたどしい英語ながら自分が相手の意見に興味を持ったことを伝え、また、自分の意見をより多く取り入れてもらえるよう努力した。なにより、相手に自分の存在を知ってもらうことが重要だと考えていた私は、パソコンを持って、同じような意見を持ってまとめている代表の近くになるべく長い間いるようにし、たまに似たような他の派閥にも声をかけてまわった。

パートナーと手分けして別々に行動していたのがよかったのだろうか、また、パートナーが上手な英語話者だったこともあるだろうが、当初、ロシアを中心とするグループとシリアを中心とするグループの、2つの草案で **Sponsor** になることができていた。しかし、草案が出来上がっていき、意見の似た草案同士が1つになっていくにつれて、ロシアを中心とした草案は、メキシコを中心とした草案と一緒にになり、**Sponsor** からはずされてしまった。代わりに、今度はなるべく全てのグループの草案の内容を聞き、**Signatory** になるかならないかを定める段階に入っていた。ここでも私は、ただ決議案を見るだけでは何が書いてあるのか理解するのに時間が掛かる上に、難しい言葉の多い決議案を完全に理解することができなかった。そのため、なるべくその決議案に関わった国の代表に意見を聞くようにし、わかりやすい言葉で教えてもらうことができた。だが結局、全てに目を通すことはできず、投票の時は棄権を多用することになってしまった。

今回の反省点として、英語の聞き取り能力が足りなかったこと、語彙数の少なさ、自らの意見における情報量の少なさがあった。それは、多くの参加者が初参加であった今回の大会において「知らなかった」では済まされないことであって、自らの無知を露呈させてしまったのは残念だった。

ただ、良い点もあった。なるべく多くの人とコミュニケーションを取る、という私の当初の目標を達成できたこと、レベルの高い人々の間に入って、アメリカを中心とするグローバル社会を体感できたこと、そして自ら率先して、初対面の人にも臆することなく話しかけ、自らの意見を述べるというスキルが伸びたことである。それまで、気づかぬ内に壁を作り、人見知りだった私にとっては大きな変化であった。

今回の大会を通して多くのことを学べたことに、サポートして下さった先生方、友人達に感謝の意を表したい。そしてもしまたチャンスがあれば、この反省を生かして再挑戦したい。

井上 裕香子

一回りも二回りも大きくなって帰ってくることができた。そう輝いた目で報告していた第一期の先輩方に憧れてメンバーに入ることを決意し、留学で力を付けてから参加した大会。ようやく彼らの言っていたことが分かった気がする。大会から帰国して約一ヶ月が経ったが、今改めて振り返ってみると、メンバーとの意見の食い違い、ほぼ毎日夏休みも関係なくパートナーと集まり作業するなど、大会までの約半年間が怒涛の毎日だったと思う。



昨年経験した一年間の留学で日本人とは全く違う様々な考えを持った学生に揉まれ、大きな壁にぶつかり、自分がいかに小さな存在なのかと改めて思い知らされ、一度どん底に落ちた私は、もう何も怖いものはない、という気持ちで今年の五月に帰国した。そんな自信満々でいた私を待ち受けていたのは更なる大きな壁だった。外国人とはまた違う考え方のメンバー、チームワーク、専門用語、専門外のトピック、と想像していたものよりも遥かに大きな壁に私はとても戸惑い、焦った苦い思い出がある。さらに、全く違う方法で進められていく授業にも戸惑い、留学帰りの生徒によくあると言われている逆カルチャーショックというものに陥り、全てのことにやる気をなくしてしまったのもこの時期である。そんな下がったモチベーションを上げるきっかけとなったのが、ベトナムの代表として大会に参加することが決定したことだ。元々東南アジアに興味があったこともあり、この機会を逃してはいけないと思い、国が決定した一週間後にはベトナムへの飛行機を予約し、夏休みに入ると同時に飛行機に飛び乗った。私が参加した国連総会第一委員会の議題である「軍縮と国際安全保障」に直接関係したのを見聞きすることはできなかったが、たくさんものを得ることができた。今思えば、よくもこんな思い切ったことができたなと思うが、この思い切った行動のおかげで一步前に進めたと思う。そして、この一步が最後まで成し遂げるための大事な一步だったとも思う。

やはり英語力という壁もあり、先生方に何度も駄目出しをされ、何度も自信をなくしかけたが、何とかポジションペーパーを書き上げ、大会本番の練習もし、さらに今まで参加してきた先輩方の話を聞いてきた分、どんなに大変でどれほどの挫折を経験するのだろうと身構えていた。しかし、いざ緊張しながら向かった本番は想像していたものよりも数段楽しく、少し拍子抜けした記憶がある。確かに、スピーカーズリストにのるためにプラカードを上げた瞬間“Viet Nam”と一番に呼ばれた時は、いくらパートナーがスピーチをすると頭で分かっているけど頭が真っ白になりとても焦った。しかし、スピーチも終わり、非公式会議でパートナーと二手に別れて最終日まで共に活動することとなったグループでは、メンバーに恵まれたこともあり、フォーマルセッションとは打って変わって緊張もせず、

たった数行ではあったが自分の意見を組み込むことができた。そして、この数行は私に更なる自信を与えてくれた。

今大会でも我々、麗澤模擬国連団体は努力の成果を賞という形で示すことができなかったが、この大会でしか経験することができないことを経験し、様々なことを学び、得ることができた。チームワーク、精神力、英語力、そして国境を越えた友情。どれも麗澤大学に、日本に留まっていたはなかなか得られないものだと思う。日本語が公用語であり、英語とはあまり関わらない生活をしている日本人にとってこの全米模擬国連大会というのは、とても大きな壁に見えるだろうが、そんなことはない。大きく見えるのは自分たちが心のどこかで「無理だ。怖い。できっこない。」と思っているからであって、その壁を越えられそうにないと思うからである。勝ち負けにこだわらず、少しの「勇気」と「やる気」さえあれば、何とかなるものである。そう私はこの大会を通して学んだ。そして、これから待ち受けているだろう様々な壁を乗り越えるために、この少しの「勇気」と「やる気」を常に意識していきたい。私にとって今回の大会が最初で最後の大会になると思うが、大会を通して、麗澤模擬国連団体は他大学の模擬国連チームと比べて経験値がとても低く、相手が戦車で戦いに挑んでくるところを槍で応戦しようとしている気分を私は味わった。英語力はもちろんのこと、麗澤チームに足りないものは「経験」なのである。これから続く第四期、第五期のためにもこれからは学年問わず、たくさんの学生がこの団体に参加し、国内外のあらゆる大会に参加し、経験積んで自分の成長に役立たせてほしいと願う。

最後になるが、麗澤模擬国連団体という土台を作って下さった先輩方、最後までチームをまとめてくれたリーダーの齋藤、パートナーの石井、他四名のメンバー、そしてご支援して下さいました先生方や全ての方々に感謝の気持ちを伝えたい。

束 午

2年前、私は麗澤大学日本語別科課程に入学し、2年間日本語を勉強しました。そして大学院で日本の歴史を勉強したいと考えましたが、私の日本語能力はまだ不十分で、歴史の研究に欠かせない古文書などを読み取る力がないので、歴史の研究はできないと考え、中国の大学で専攻していた英語を生かして、英語教育の研究することに決めました。



無事麗澤大学院英語教育専攻に合格し、英語教育の研究を始めましたが、麗澤大学では過去に「全米模擬国連大会」に参加していたということを知り、今年も参加の予定のようなので、顧問のクリス・マクヴェイ先生に参加希望を申し入れました。先生のご了解を得て、メンバーの一人になることができました。

模擬国連はそれぞれが一国の大使を任せられ、特定の議題について担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて、実際の国連における会議と同じように議論、交渉し、決議を採択することを目的とし、国際問題への理解や交渉術の深化を図ろうとすることである。

参加メンバーは6人で、私たちの担当国はベトナムでした。今年四月から毎週一回ミーティングをして、大会のルールを学んだり、ベトナムの国情、文化、経済などを調べたり、発表の練習をしたりしました。学内での正式なプレゼンテーションは一回だけでしたが、その中でたくさんの課題が見つかりました。一番の問題は私の自信が不足していたことでした。もう一つの課題はベトナムへの理解不足です。そこでメンバーはベトナム大使館を訪問して、一等書記官の話聞き、いろいろなアドバイスを受けました。ベトナムの国情やベトナム人の日常生活が少しわかりました。しかし私たちが用意した質問に答えるよりも、私たちの訪問に興味を示し、逆にたくさんの質問をされてしまい、かなり時間がかかってしまいました。

ベトナムの立場を表明するためのポジションペーパーを書くのは、非常に大変な作業でした。約2ヶ月かけて、何度も何度も書き直し、その都度クリス先生とマウロ先生に助言をいただきながら、次第に内容のある文章になっていきました。お二人の先生には本当に感謝しています。

私の仕事は情報管理担当で、模擬国連や実際の国連のいろいろな情報、ベトナムの文化、宗教やベトナムと関係あるNGO活動などの資料を集めて、メンバーに提供することでした。インターネットや図書館で調べたり、多くの情報から必要なものを取り出しまとめたりするのに苦労しました。メンバー皆の役に立ったことが嬉しかったです。

10月23日、いよいよアメリカに出発しました。三日間模擬国連大会に参加しました。世

界中の学生がそれぞれの委員会に所属し、それぞれの委員会ではコーカスで小グループを作って、複雑な国際問題について協議しました。私たち6人は2人ずつ各委員会に分かれ、私と齊藤（瑠奈）は、第2委員会に出席しました。会議の冒頭、出席を取る際に「ベトナム」と呼ばれ、私たちはベトナム人のつもりで返事をし、英語でベトナムの正式名称を言いました。初めてなので非常に緊張しました。第2委員会のテーマは3つあります。

1. “Supporting Entrepreneurship” 「企業家への支援」 2. “Improving Information and Communication Technologies for Growth” 「成長のための情報とコミュニケーション技術の向上」 3. “Managing Migration for Economic Development.” 「経済成長のための移民管理」

私たちはこれらのテーマについてベトナムの立場として発表することになっています。そしてプラカードを挙げ、ベトナムが指名され齊藤が発表することができました。私はそれぞれのテーマのグループに三日間参加し、会議でカードを挙げて発言することができました。コーカスでは床、階段、椅子などみんな自由に席に着き、自由に発言できる雰囲気でした。決議案に自分の発言が入れられるかどうかは、参加者の投票によって決まります。私の発言は、決議案草案に入りましたが、最終的には賛成を得られなかったので決議案にすることはできませんでした。

今回の模擬国連参加は私にとって初めてのアメリカ訪問です。出発までの準備は大変でしたが、それでも未知の国への興味は大きかったです。ホワイトハウス、国会議事堂、リカーン記念堂などを見学しました。また地下鉄では、小銭を貸してくれようとしたアメリカ人の優しさに触れることもできました。

私は日本に来て、日本の文化に触れ、日本人の国民性を少し理解できるようになりました。そして今回アメリカで世界中の学生たちの意見を聞くことができました。視野が広がった気がします。後輩たちにも是非このような経験をしてほしいと期待しています。

最後にこのような機会を与えて下さった麗澤大学関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

加藤 卓

初めに、今年度の活動を応援して下さいました麗澤大学の教職員、教授、先輩や友人、そしてメンバーに感謝したい。幾度となく折れそうだった自分を支えて下さり、本当にありがとうございました。

この団体に参加したきっかけは、麗澤MUN第1期生の鳥畑剛先輩からのお誘いであった。なぜ自分に声をかけてくれたのか理解できずにいたが、大会に参加することで今ま



でとは違う経験ができると思い、参加を決意した。第1期生、第2期生メンバーの大会参加後の報告書を見て、決して楽な活動ではないと改めて認識した。自分の実力で大丈夫だろうかと何度も思ったが、最後まで食らいついていこうという気持ちで参加を決意した。

大会に向けての活動では、今まで経験したことがない量の資料を読んだ。大部分は英語で、その内容を理解することすらままならなかったし、膨大な量の資料から必要な箇所だけを抜き出す必要があった。英文を読むことに慣れていない自分にとって辛い作業であった。最初は苦手意識を持っていたが、徐々に読むことへの抵抗はなくなっていった。他のメンバーと比べて、英語力は高い訳ではなかったが、繰り返し読み込むことで問題への理解を深められていき、その積み重ねが自信へと繋がっていった。最初から諦めるのではなく、自分なりに努力することの大切さを改めて学べ、今後社会に出た際にも生きていこう。

実際の会議では、会場に入った瞬間からその場の雰囲気にもまれてしまった。他国の代表が矢継ぎ早に話しかけてきたからだ。当然の事だが、周りに日本人などいるはずもなく、パートナーは一人でも積極的に他国の代表と話していた。この時、「英語力<コミュニケーション力」だと感じた。いくら英語のフレーズや単語を知っていても、それを使う機会に自分から飛び込む必要がある。自分は英語力も高くないからこそ、積極的にコミュニケーションをとる必要があった。しかし、「自分の英語が理解してもらえないのでは？」と一人でふさぎ込んでしまった。今思い返せば、たとえ英語が通じなくても「話す」という行為に意味があったと思う。話さなければ何も始まらないし、自分の意思表示もできないからだ。周りは英語を母語としているのだから話せて当たり前で、自分は日本人なのだから、と割り切るべきだった。出発前にゼミの教授が、「国を背負って発言しているわけではないのだから、自分が恥ずかしくても相手は気にしていない。日本人が上手な英語を話すなんて思っていない」と激励して下さいました。まさにその通りだった。徐々に話すことはできたが、緊張と恥ずかしさは残っていた。会議が始まると、パートナーと別々になり、パニックになってしまった。他国の代表は圧倒的な情報と交渉術で次々と解決策を提案していた。自分も意見を積極的に出したが、知らない情報が出ると固まってしまった。他国の代表は

表面的な理解ではなく、根本から問題を理解し、それを自国の状況と重ねていた。自分は基礎知識だけで満足していたが、そこに国の代表としての意見はなかった。「国の代表」としての意見をしっかり構築する必要があったが、自分はできていなかった。

この活動を通して感じたこと、それは「自分の甘さ」だ。問題に対するリサーチ不足や、与えられた仕事への責任感の薄さ、そして常にパートナーを頼ってしまったこと。その甘さでどれほどメンバーに迷惑をかけてしまったのだろうか。自分の手で信頼を崩し、メンバーの不信感が痛いほど伝わった。自分がないほうがよかったのかもしれない、と何度も思った。しかし、自分を少しでも変えるきっかけにしたいと思って参加したこの麗澤MUNを諦めたくなかった。途中で辞めていたら、それすら気付かなかっただろう。

大会終了直後、パートナーの一言が頭から離れない。「今後国際社会に出るなら、周りにいつも日本人がいるとは限らない。一人で交渉の場に臨まなければいけない時もある。一人で行動できるようになれ。自分に責任を持て。お前は詰めが甘い。」この時、パートナーが会議中も自分の動きを見ていたこと、あえて一人にしていたことを知った。散々迷惑をかけていたにも関わらず、自分の成長を考えてくれていた。本当にありがたかった。

この活動に参加したいが悩んでいる学生もいるだろう。「英語力がないから」、「自分には荷が重い」と感じているのなら、自分を見てほしい。英語力も高くなく、満足のいく成果も得られなかった。しかし、自分自身を見直す良い機会だった。この活動を通して自分が世界では通用しないことがわかった。それだけでも大きな収穫だ。参加しなければ何も得られなかった。辛い思いや自分に嫌気がさしたこともある。だが参加したことは後悔していない。自分の甘さは一朝一夕で変わるものではないが、変わるためのとても良い機会だった。今回の大会を通じて自分の新たな目標が生まれた。それは「世界をもっと知ること」だ。そのために自分は世界一周を計画している。達成するためには甘さを捨て、一人でこなさなければならない。この活動で思うようにいかなかった悔しさをバネに、世界へ飛び出していきたい。

Delegation from
The Socialist Republic of Viet Nam

Represented by
Reitaku University

Position Paper for the General Assembly First Committee

The topics before the General Assembly First Committee are: Increasing Women's Role in Disarmament and Nonproliferation; the Prevention of an Arms Race in Outer Space; and the Implementation of the Convention on the Prohibition of the Development, Production, Stockpiling and Use of Chemical Weapons and on Their Destruction. Viet Nam, having suffered great losses through various wars in the last century, is unreservedly committed to disarmament and nonproliferation as an essential step towards global peace and security.

I. Increasing Women's Role in Disarmament and Nonproliferation

Viet Nam has been a contributing full member of the Conference on Disarmament (CD) since 1996, and the disarmament and nonproliferation of nuclear weaponry in particular remain among its highest priorities. In the region of Southeast Asia, Viet Nam is working with other Member States of the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) to implement the Treaty on the Southeast Asia Nuclear Weapons Free Zone (SEANWFZ). Since innumerable Vietnamese women have been victims in past armed conflicts, an increase in their role in this area is a prime concern. Viet Nam, therefore, strongly supports UNSCR 1325, which focuses on women, peace, and security, as well as UNSCR 1889, which emphasizes the participation of women throughout the entire peace process. As Viet Nam Prime Minister Nguyen Tan Dung noted at the opening of the ASEAN Council of Women's Organization (ACWO) General Assembly in Hanoi in 2010: "The participation and contribution of women in the creation and development of ASEAN is greatly significant." He also emphasized that "[t]he contributions of Vietnamese women to the development of the country has been increasing and they are taking on more important roles in all walks of life." The Vietnam Women's Union (VWU), founded in 1930, has during the past few years been active in helping women into public office, effecting an increase of the percentile of seats occupied in the National Assembly and People's Council from 18.5 in 1997 to 26.2 the following year, after which the figure has stabilized at approximately 25. The Joint Program on Gender Equality (JPGE), established in 2009 as part of the Millennium Development Goals Achievement Fund, has been drawn to contribute to this improvement. Finally, one of the objectives of the National Strategy on Gender Equality (period 2011-2020) is to promote the placement of more women in leadership roles and decision-making posts. Therefore, once there is a significant increase of female participation in the political arena, and especially in the related military sector, the issue of weapons disarmament and nonproliferation can be pursued in a manner that represents the whole of society more accurately.

II. Prevention of an Arms Race in Outer Space

In 1980, Viet Nam ratified the 1967 Outer Space Treaty (OST) which bans the deployment of any weapons of mass destruction in outer space, and it remains dedicated to ensuring that outer space be used solely for peaceful purposes. Viet Nam encourages the Member States that have not yet ratified

this treaty to do so as a matter of urgency. Viet Nam is very conscious of the rapid developments in space technology and the potential threats to international stability that such technology could pose. For this reason, Viet Nam fully endorses all UN efforts in this regard, including the Committee on the Peaceful Uses of Outer Space (COPUOS), set up in 1959 by the General Assembly. Viet Nam regrets that, despite the attempts of the UN, no consensus has as yet been reached concerning the establishment of a space regime. It is clear that a mechanism to ensure transparency and accountability is required, and Viet Nam wholeheartedly supports the Group of Governmental Experts, launched by the UN in 2010, in its aim of developing “transparency and confidence-building measures” (TCBMs). Smaller nations are also beginning to invest in space. Viet Nam, being one such example, took the decision to set up its own National Satellite Center (VNSC) in 2011. Thus, the prevention of an arms race in outer space has become a truly global issue. In light of this, Viet Nam believes that still more prominence must be given by all Member States to the development of long-term measures that will supervise responsible behavior in outer space and thereby help foster international peace and security.

III. Implementation of the Convention on the Prohibition of the Development, Production, Stockpiling and Use of Chemical Weapons and on Their Destruction

Vietnamese people have suffered atrocious effects from chemical weapons, especially defoliants such as Agent Orange, and therefore Viet Nam unequivocally supports the elimination of all chemical weapons worldwide. Viet Nam also endorses the implementation of the Chemical Weapons Convention (CWC), which is key to achieving international peace and security. The Organization for the Prohibition of Chemical Weapons (OPCW) is working to build measures to ensure the destruction of chemical weapons as required by the CWC, and Viet Nam has fulfilled its duties as a member for more than ten years. Viet Nam, along with other states, is working tirelessly within the OPCW to reach the organization’s goals. Although Viet Nam also exports chemicals for industrial use, it has a licensing system in place to comply with export control obligations under the CWC. The Viet Nam Chemicals Agency (Vinachemia) is responsible for Viet Nam’s CWC commitments, including export licensing. Viet Nam has also been working with the CWC at the sub-regional level, namely with the Technical Secretariat in organizing the 2007 ASEAN Conference on customs issues relevant to the implementation of the CWC. It has also contributed to building legislative regulations and measures related to the CWC implementation. As the leader of the OPCW has noted, “Viet Nam has become a symbol in their region in the implementation of the Chemical Weapons Convention.” Viet Nam’s Foreign Ministry has expressed deep concern about recent news on the potential use of chemical weapons and strongly condemns the act of employing them against civilians. It calls upon all countries to exercise military restraint, to respond to such situations with objectivity, and to exercise prudence by using peaceful means alone while respecting international law as well as the United Nations Charter.

Delegation from
The Socialist Republic of Viet Nam

Represented by
Reitaku University

Position Paper for the General Assembly Second Committee

The topics before the General Assembly Second Committee are: Supporting Entrepreneurship; Improving Information and Communication Technologies (ICT) for Growth; and Managing Migration for Economic Development. Viet Nam is resolved to improve ICT for entrepreneurs in order to assist their sustainable businesses, which in turn can lead to more effective management of migration for further economic development.

I. Supporting Entrepreneurship

Viet Nam supports entrepreneurship in order to create employment and develop the economy. Since the initiation of the Doi Moi Renovation in 1986, Viet Nam has gradually come to appreciate the power of the entrepreneurial spirit, and so it urges other developing nations to promote entrepreneurship as an effective method for reducing poverty and ensuring sound economic development. In recent years, the focus has been to educate young entrepreneurs on how to conduct business successfully in order to create further employment. The Vietnam Young Entrepreneurs' Association (VYEA), a voluntarily professional and social association of young Vietnamese businessmen operating on a nongovernmental and not-for-profit basis, gathers entrepreneurs around the country to work together for the development of the economy and prosperity of the people. Earlier this year, Viet Nam collaborated with the United Nations Conference on Trade and Development (UNCTAD) to establish the first ever EMPRETEC center in Asia. EMPRETEC is a UN program specifically dedicated to the building of entrepreneurial skills, and Viet Nam thus aims to become a hub for such training in the region. The main beneficiaries are young entrepreneurs, female entrepreneurs and small and medium sized enterprises (SMEs). None of these ventures is possible without access to credit, so Viet Nam is pursuing microfinance support programs, such as the project funded by Cordaid, targeting 150,000 low-income households. Also, Viet Nam welcomes more foreign investment as a greater international presence helps young Vietnamese entrepreneurs to learn different and current strategies, thus generating even more business from this interaction. Due to such financial support, Viet Nam can become the entrepreneurial center of the region.

II. Improving Information and Communication Technologies for Growth

Viet Nam recognizes that ICTs play a crucial role in any country's efforts towards sustainable development. Viet Nam, therefore, has wholeheartedly supported and continues to support the wide spectrum of work carried out by numerous UN and other organizations to bridge the so-called "digital divide". Viet Nam has also supported all relevant General Assembly Second Assembly Resolutions, including GA Resolution 67/195 (2013) on Information and communication technologies for development. The Vietnam Ministry of Information and Communications has implemented a strategy to upgrade the country's IT infrastructure by 2020, with the aim of increasing the information communication sector's contribution to the GDP to over 20%. The

number of Internet users has increased by over 10% over the past 10 years, and 79% of the population now have cell phones. Viet Nam acknowledges that much more work needs to be done, particularly in rural areas, but it is determined to pursue all measures to strengthen ICT connectivity across the country in order to give its entire people the opportunity to grow economically. Viet Nam believes that education is the foundation for social development and sustainable economic growth and is cooperating with The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) in defining a joint roadmap to reach the goal of becoming a “Knowledge-Based Society” by 2020. At the same time, Viet Nam is highly conscious of the risks, especially to younger people, of open access to the Internet and ICTs, so the government maintains a certain level of control over all such media. Viet Nam urges developed nations to intensify their efforts in this critical area so that the digital divide will soon become a phenomenon of the past.

III. Managing Migration for Economic Development

Viet Nam recognizes the important role migrant workers play in any society and the significant economic contribution they make both to their countries of destination and origin. Viet Nam needs to protect their domestic employment but at the same time, foreign companies which aim to start new businesses in Viet Nam hire a lot of Vietnamese workers, and they can learn from the companies, so Viet Nam cannot exclude immigrants from their economy. However, there is a limited number of jobs, so the government needs to control the number of immigrants. Viet Nam has immigration laws which govern foreign employment and investment in Viet Nam. One of the laws is the Law of Enterprises (LoE). The law manages the numbers of foreign companies that enter and invest in the country, so that the ratio of foreign investment remains about 26%. Furthermore, for the economic development, Vietnamese government organizes overseas employment. With regard to international migration, some three million Vietnamese live abroad with another 450,000 residing abroad as temporary workers. However, many labor migrants find it difficult to earn enough money due to the excessive pre-departure costs. Viet Nam, in cooperation with the International Organization of Migration (IOM) and the international community, opened its first Migrant Resource Center (MRC) in 2012 in order to offer support to intending and returning migrant workers. Viet Nam believes that it is essential for every country to manage migration effectively in order to protect the rights of migrant workers and address problems such as human trafficking. Thus, it urges all Member States to review and improve their policies and work together to exploit the positive impact of migration on economic development.

**Delegation from
The Socialist Republic of Viet Nam**

**Represented by
Reitaku University**

***Position Paper for the International Conference on Population and Development (ICPD) Beyond
2014***

The issues before the International Conference on Population and Development (ICPD) Beyond 2014 are: Promoting Maternal Health in Developing Countries; Capitalizing on Urbanization for Development; and Creating People-Centered Approaches and Including Civil Society. Viet Nam welcomes and supports all efforts from the international community, including people-centered organizations, to foster sustainable socio-economic growth in developing countries.

I. Promoting Maternal Health in Developing Countries

Tight, sustainable partnerships between governments, non-profit organizations, relevant stakeholders, and national human rights institutions are needed in order to prevent maternal mortality and to provide child health in developing countries. Approximately 350,000 women die per annum in childbirth, 99 percent of which occurs in the developing world, where more than half of women still deliver without the assistance of skilled health personnel due to lack of access to reproductive health care. Viet Nam fully endorses the UN Foundation's Universal Access Project that aims to provide quality reproductive health care to more than 200 million women around the globe that are in need of such basic services. Viet Nam, while recognizing that much more must be done in the more remote rural provinces, has made considerable progress in this area through its "National Strategy on Population and Reproductive Health for 2011-2020." From 1990 to 2012, Viet Nam succeeded in reducing the rate of maternal and under-five child mortality from 240 deaths per 100,000 live births to 59 per 100,000, and from 5,000 deaths per 100,000 live births to 2,200 per 100,000. Since almost one-third of Viet Nam's population is under the age of 24, the government is targeting the needs of these future parents for sexual and reproductive health education and services in cooperation with the United Nations Population Fund (UNFPA) and other international agencies. Viet Nam firmly believes that promoting maternal health is a shortcut to achieving progress in all the Millennium Development goals. As such, it joins the Secretary General Ban Ki-moon in urging all Member States to make investment in reproductive health a top priority.

II. Capitalizing on Urbanization for Development

Viet Nam understands that more than half of the world's population now lives in towns and cities, and approximately 40% of Vietnamese is also projected to do so by 2020. Viet Nam actively supports the work being done by the United Nations Population Fund (UNFPA) and other agencies to face the challenges and, more importantly, to exploit the tremendous opportunities that this rapid urbanization presents. As Viet Nam's Deputy Prime Minister Nguyen Sinh Hung stated in 2009, "If we fail at urbanization, we will fail at industrialization and modernization." In the same year, Prime Minister Nguyen Tan Dung adopted the National Urban Upgrading Strategy to improve living standards, such as eradicating poverty in urban areas, and the environment, such as air pollution

and water shortage. The government, then, considers the development of its cities a top priority, and it is working closely with relevant agencies such as UN-Habitat and the World Bank to implement its urbanization policies. Viet Nam is developing strategies to ensure a fairer distribution of economic growth and urban development beyond Ho Chi Minh and Hanoi. Two programs established to address these issues are the Urban System and Development Strategy to 2020 and the Socio-Economic Development Strategy 2011-2020. Though a great deal remains to be done, particularly with ethnic minorities, many advances have been made toward improving the infrastructure of the country in terms of transportation and access to basic resources such as clean water, electricity, health services, and education. In addition, there are few slums in the two main cities of Viet Nam compared with those of other developing countries because the Viet Nam government provides inexpensive housing for low-income citizens. As a result, according to the Ministry of Construction (MOC), “in the past ten years the number of houses in Viet Nam increased from 16.6 million in 1999 to 22.2 million in 2009.” Also, 99% of the population now has access to water and 94% to sanitation. As a result, Viet Nam has achieved most Millennium Development Goals ahead of 2015, including MDG 1, with a dramatic reduction in poverty from 58.1% in 1990 to 11.8% in 2011. Viet Nam is open and willing to collaborate with any other Member States interested in development via urbanization.

III. Creating People-Centered Approaches and Including Civil Society

In order to implement the ICPD Programme of Action, adopted at the 1994 International Conference on Population and Development in Cairo, Viet Nam strongly believes that grassroots democracy are necessary to increase citizen participation in public life, especially in decision-making processes, in a more inclusive, transparent and responsive manner. In 1998, Viet Nam issued a Grassroots Democracy Decree (GDD), which introduced the legal framework for expanding direct citizen participation in local government. The decree achieved this goal by enabling citizens to become informed about current policies, discuss issues, participate at all levels of decision-making and consult the work of the government, NGOs, communities and private sectors. GDD guidelines, in particular, enable citizens to comment on government policies on communes, socio-economic development, the use of land, etc. In order to foster an even more people-centered form of government, Viet Nam now recognizes the necessity of working closely together with governments, parliamentarians, NGOs, private groups, and local communities around the world. In 2011, as a result of foreign investment, Viet Nam received approximately \$2.46 million in aid, an increase from \$0.11 million in 1992, to develop the Vietnamese Grassroots Democracy. 60% of the 2011 amount helped to build an improved educational system that enables the individual to gain access to the basic knowledge necessary for political participation. Education is vital because not only does it increase the people’s ability to participate in politics, but it also helps them to do so more constructively. Viet Nam continues to call on the importance of cross-sector partnerships in view of previous aid, which has greatly contributed to the democratic advancement of Viet Nam.

おわりに

今年の4月から始動した麗澤 MUN 団体第3期チーム。大会出場までのわずか半年の間に、限りなく有意義な時間を過ごし、人生の糧となるような学びを得ることができた。それは世界大会に挑戦することの難しさ、自らの能力への気づきや仲間の大切さである。何か一つのことを成し遂げようとする際に、仲間との意思疎通や周りからの支援を無くしては成功させることなどできない。この団体では和気あいあいとした雰囲気の中で語り合うだけでなく、時には互いの意見を衝突させることもある。そうしていく中で、より質の高い価値観を共有していくことができるのは、麗澤 MUN 団体の特徴であり強みである。

自分からなかなか一歩を踏み出せない学生、そして目標を持たずに日々を過ごしている学生へ向けてアドバイスをしたい。私たち第3期生は、全員がこの活動に一歩を踏み出したことでかけがえのない学びを得ることができた。この団体の活動に限らず、在学中にあらゆることに挑戦することで、かけがえのない経験をし、自身の成長に繋げることができるだろう。時には失敗することもあるかもしれない。失敗を恐れているのであれば、だからこそ挑戦するべきだと思う。私たちも自分たちの力が世界の舞台で通用するののかという大きな不安を抱えていたが、それも今となっては「素晴らしい経験」の一言である。必要なことはただ一つ、目標に向かって一歩前に踏み出す勇気を持つことである。そうすれば自分自身の学生生活がより豊かに、そして充実したものになると私たちは信じている。

最後に、私たち麗澤 MUN 団体第3期チームの活動を支えて下さった麗澤大学の中山理事長を始め、学生のみなさん、教職員の方々にお礼を申し上げたい。私たちは今年度の活動を報告会を区切りとし、新たな熱意をもって活動を継続していく。私たちの活動を通じて、麗澤大学が一層飛躍できるように努めていきたい。そして、一人でも多くの学生が私たちと同じような経験をし、学びを得てくれることを切に願う。

麗澤 MUN 団体一同

フォトギャラリー



非公式会議（交渉）



他国の代表と意見を交わす



非公式会議（決議案作成）



他国の代表たちと



採決の様子



日本から参加した筑波、大阪大学の代表たちと

スポンサー

麗澤大学後援会

麗澤大学国際交流基金

麗澤大学経理課

麗澤大学学生支援グループ

麗澤大学教務課

麗澤大学総務課

麗澤大学国際交流センター

麗澤大学企画広報室

中山理 学長

渡邊信 外国語学部 学部長

下田健人 経済学部 学部長

成瀬猛 教授

梅田徹 教授

田中俊弘 教授

マクヴェイ, ポール C. 教授

コミサロフ, アダム M 教授

ロディコ・マウロ 助教

I-Lounge

Kevin Hempshill

Kieran Julian

フォーリンプレスセンター 赤阪清隆 理事長

